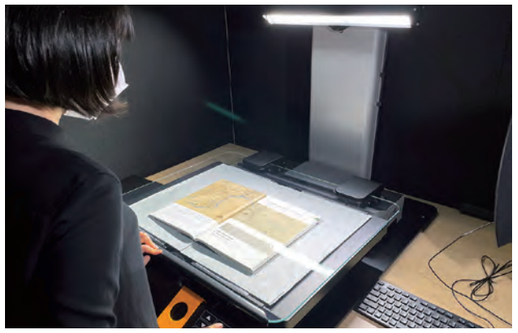
電子情報部

情報技術を用いた国会議員への調査サービス・情報提供サービスの充実のほか、インターネットを通じて個人の端末や身近な図書館で閲覧できるデジタル資料の拡充を図るとともに、国内外の誰もが利活用可能な知識基盤の構築を目指します。
また、業務の基盤となるネットワークやシステムの管理を担います。

電子情報事業に係る企画・研究



デジタルで全ての国内出版物が読める未来を目指し、所蔵資料のデジタル化を推進するとともに、デジタル情報の長期保存等、国立国会図書館の電子情報事業に係る計画の立案や関係団体との調整を実施する。外部機関との連携協力を推進し、国の事業である多様なデジタルアーカイブの検索・閲覧・活用プラットフォーム「ジャパンサーチ」の開発・運用も担当する。「NDLラボ」では次世代の図書館システムを開発するための調査研究や実験も行う。

情報資源へのアクセス提供

国立国会図書館の所蔵資料やデジタルコンテンツの検索・申込みに加え、全国の公共図書館・学術機関のデータベースの横断検索ができる「国立国会図書館サーチ」、震災記録のポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」等を開発・運用し、様々な情報資源へのアクセス手段を提供する。

情報システムの開発・運用

「国会会議録検索システム」や「日本法令索引」等の立法活動に関する情報を管理・提供するデータベース、公式ホームページ、資料の収集・整理等の業務のための情報システムを開発・運用する。国会向け・一般利用者向けの各種サービスの提供と業務の遂行を、システムインフラの構築と運用により支える。

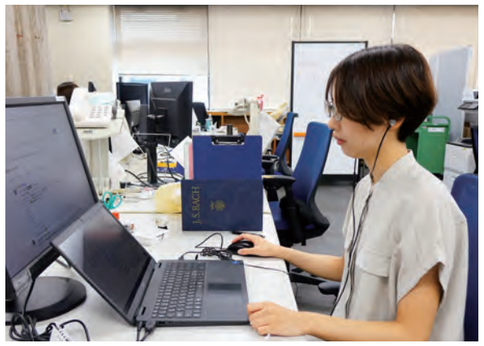
「情報資源への入口」を作る

石川 侑希 電子情報サービス課副主査

「国立国会図書館に行ったら本棚がなかった」—国立国会図書館を初めて訪れた方から、度々このような感想を耳にします。国立国会図書館の資料はほとんどが書庫に収められているため、読みたい本は申込みをして窓口で受け取る必要があります。しかし近年、資料のデジタル化が進み、求める本を手元の機器で読むことができる可能性が高まっています。

国立国会図書館の蔵書数は 5 千万点近くあり、またデジタルで提供する資料は 600 万点を超え、種別に応じた利用方法も様々です。その中から求める情報を見つけるため、多くの方がまず検索するのが「国立国会図書館サーチ」〈https://ndlsearch.ndl.go.jp/〉です。私が所属する電子情報サービス課は、国立国会図書館サーチをはじめとする情報システムを主に担当しています。

国立国会図書館サーチは、国立国会図書館と全国の図書館等の資料を統合的に検索できるサービスです。各機関の所蔵する資料やインターネット閲覧可能なデジタル資料を含む約 2 億件近い書誌情報を収録するだけでなく、各種サービスの申込みの窓口でもあります。「情報資源への入口」としての機能をより高めるべく、現在も利用者からの意見やログ分析などを参考にサービスを常に改善し続けています。



オンライン会議で日々の運用状況やサービス改善などについて議論

国立国会図書館の業務およびサービスはいくつものシステムで構成されており、隅々まで把握することは容易ではありません。電子情報サービス課では様々な業務経験や知識を持つ職員が得意分野を活かして働いており、また研修などによって業務に必要な専門知識を得ることができます。

「図書館員の仕事は人と本をつなぐこと」と言われます。私は入館以来、利用者の方々に資料を提供する仕事、資料を集める仕事を経験してきました。現在は、人と本をシステムで「つなぐ」業務に関わっていることにやりがいを感じています。また、多くの人によりよいサービスを提供するために、常に利用者の視点を持つことを心がけています。

学生時代の専攻

ロシア文学

Career

R2.4	利用者サービス部サービス運営課
R4.4	収集書誌部外国資料課
R6.10	電子情報部電子情報サービス課 （R7.7 副主査）